

伝えたい! 僕たち、私たちの高校野球 プレゼン甲子園

野球まなびラボHP <https://yakyumanabi.net/>

新型コロナウイルスの猛威はとどまることを知らず、社会情勢が著しく変化
中、高校野球から私たちは何を身につけることができるのだろうか。チームの
置かれたそれぞれの立場で、自分たちなりの高校野球の価値を創造する。「甲
子園」だけじゃない、僕たち、私たちにとっての高校野球の価値を伝えたい。今
年2月、オンラインで開催された「プレゼン甲子園～今だからこそ伝えたい!
高校野球の必要性～」で発表された各校の取り組みを紹介する。

第3回

「野球にとどまらない、 私たちならではの取り組み」



東京都立新宿高等学校

所在地: 東京都新宿区
スタッフ: 升田佳佑責任教師、田久保裕之監督
部員数: 23人 (マネジャー3人)

「全員野球、全力野球、全国野球」
のテーマの下、新宿は、日本一の文
武同道の達成を目指し、日々励んで
いる。「同道」とするのは、野球と
勉強は一本の道、つまり、野球の成
長が勉強につながり、勉強の成長が
野球につながるの信条からだ。

実践するのは普段の練習や勉強、
野球の普及活動など、さまざまなこ
とが自分たちを成長させたと考え
る「万事練習」の態度。他校に比べ
練習時間は少ないが、食事、睡眠、
自主練習、自主学習など、すべて勝
利につながるものだととらえて、練
習できない時間までも「チームが勝
つための時間」にすることで、野球
にかかわる時間の絶対量を確保する。
「一日のすべてが勝つための練習!」
という心持だ。

その取り組みは多岐にわたる。例
えば、「新宿ベースボールアカデミ
ー」は小学生を対象とした普及活動。

部員の出身チームを中心に高校へ招
き、高校生がコーチとなって、練習
からゲーム形式まで、さまざまな形
で野球の技術や楽しさを伝える。子
ども相手では叱咤の対応が難しいと
感じることもあるが、おかげで、先
を読んで行動したり、場を回す力が
身についたりしたと実感した。また、
これと並行して小学生に勉強を教え
る「勉強会」や、保護者や指導者向
けにマネジャーが行う「スコア講
習」、専門家を招いて行う「トレ
ーニングと障害予防、栄養講座」、部

員の母親による「高校野球相談会」
なども行っている。
高校野球連盟の主催で2019年
度から行う「幼児向けTボール教室」
も普及に役立っている。昨年度は、新型
コロナウイルスの影響で、前年とは
異なる「出張版幼児向けTボール
教室」として密にならない河川敷で
感染対策に留意して開催した。「コ
ロナのせいだ」と今までで取り組ん
できたことをあきらめずに開催でき
てよかった」と感じている。

さらに、地域密着活動「WELCOME



▲コロナ禍で河川敷で行った幼児向けTボール教室

——短期集中連載——

第1回(4月号3月17日発売)
「高校野球をする意味を考える」
桜丘高校(東京都)
我孫子東高校(千葉)

第2回(5月号4月16日発売)
「高校野球を通しての成長」
横浜翠陵高校(神奈川県)
我孫子二階堂高校(千葉)

第3回(6月号=本号)
「野球にとどまらない、
私たちならではの取り組み」
開智未来高校(埼玉)
新宿高校(東京都)

第4回(7月号=6月17日発売)
「甲子園を目指して」
松戸高校(千葉)
江戸川高校(東京都)

新宿」は立地を生かした独自の取り
組みだ。日本一のターミナル駅であ
る新宿駅周辺にて、困っているな
人に声を掛けたり、外国人観光客
への道案内をしたりするもの。積極
的に人とかわることでコミュニケー
ション能力向上を狙っている。

外国人との会話では、実践的な語学
スキルが試される。英語圏以外の国
の方とも話をするために、さまざま
な国の言葉で会話のテンプレートを
作って準備をするなどの工夫も施し
た。何より、一歩踏み出して見知ら
ぬ人に声を掛けることで世界が広が

ることを知ることができた。その積
極性は野球にもつながっていると実
感した。

チームを率いる田久保裕之監督
は新宿のOB。かわいい後輩であり、
かわいい教え子である部員たちの頼
もしい成長を誰よりも喜んでいる。



開智未来高等学校

所在地: 埼玉県加須市
スタッフ: 伊東悠太郎校長監督
部員数: 15人

全世界の高校生のために始動した 『高校生思い出プロジェクト』

開智未来は今年開校10周年を迎
えた進学校。勉強と部活はつなが
っているという「文武一体」の実現
を目指し、各々の得意分野を伸ばす
プログラムや自主的に勉強する環境
が整えられており、教育目標の「国際
社会に貢献する心豊かな創造型、発
信型リーダーの育成」のため、さま
ざまな場面で自主性が発揮される。

硬式野球部は、創部5年目と歴史
はまだ浅いが、世界一周を経験
した伊東悠太郎校長監督の下、野球
を通じて「世界平和に貢献できる力」
を育むために、日々新しいことに挑
戦している。「いざとなった時、動
くことができる人になりなさい」と
教えるのが伊東監督の実践力が手本
となる。

例えば、2020年5月20日、第
102回全国高校野球選手権大会の
中止が発表された際には、マネジャ
ーが「幻の102回、甲子園モザイ
クアート」を企画。高校野球にかか
わる人たちの写真を使用して制作し
た。さらに、全国のマネジャーから
メール動画を集めて発信。すべての
高校生選手に励ましを届けた。

2度目の緊急事態宣言下では、機
度かのミーティングを重ね、「今が、
(伊東監督が常々言っている)「いざ
となった時」なのではないか」とい
う声が、部員から上がった。そして、

「新型コロナウイルス感染拡大の影
響によって実施不可能になった修学
旅行をなんとかしてやりたい」「全
国の高校生が参加できるものを企画
したい」と考え、企画したのが「高
校生思い出プロジェクト」だ。

それは、ホームページに写真や
30秒以内の動画を掲載することで、
高校生が全国、世界の人々に、自分
のベストスポットや地域の人しか知
らない魅力を伝えていくもの。

新型コロナウイルス禍では、修学
旅行を含むさまざまな行事が実施で
きなくなったり縮小したりした。「行
き場のない喪失感にさいなまれている
のは、日本の高校生だけではない。
世界の高校生もまた同じ状況に置か
れていることだろう。世界中の高校
生と一つになれる機会をつくりたい。
私たちの一野球部だけではなく一高
校生として、多くの高校生と
「高校生思い出プロジェクト」
を通して、今しかできない青春
の1ページをつくりたい」と考え企画・実行した。「高
校野球に取り組む環境が新型
コロナウイルスの影響で限ら
れている中でも、高校生の輝
く機会や、出会いを生み出す
場所をこのプロジェクトを通
して提供できたらいいな」と
いう思いだ。

今回のプロジェクトでは、不可能
を可能に変える「発想の転換」に加
えて、一歩踏み出す行動力とそれを
夢物語で終わらせない実践力を育む
ことができたと感じている。伊東監
督は「止まってしまうようなチーム
がまた動き出した」と充実ぶりを口
にし、「いつか世の中に出てからも
活躍してもらいたいと思っています
11人の部員に期待の言葉を掛けた。

青春の1ページを残すためにさま
ざまな取り組みを企画立案・実行し
てきた開智未来野球部は、今日も「世
界平和に貢献すること」を目指し、
自分たちならではの高校野球に励ん
でいる。

「高校生思い出プロジェクト」(公式HP)
<https://sites.google.com/kaichimira.ed.jp/zenkoku-grk/%E3%83%98%E3%83%BC%E3%83%A0>



▲高校野球にかかわる人たちの写真を使用して作成した「幻の102回、甲子園モザイクアート」